

新校舎始動、過去を基盤に未来を育む新たなステージへ

校長 小山 進治

いしかげ こどもしちにん こしかけて ふぐ つりおり ゆうやけこやけ きたはらはくしゅう
石崖に 子ども士人 腰かけて 河豚を釣り居り 夕焼け小焼け (北原白秋)

今年の夏は、酷暑と言われるほど、連日暑さ極まる40日間の夏休みでした。長い、長い夏休みでしたが、子どもたちそれぞれが目標をもち、一人一人違った思い出が残ったことでしょう。冒頭の短歌のように、夕焼け空の下、仲間と共に時間を忘れて何かに没頭した経験もできたでしょうか。また、学級や学年の友達と学び合う日々が始まりました。

さて、私たち教職員の夏は、新校舎への引っ越しで始まり、新校舎の環境整備に余念なく全力を注いだ夏休みでした。もちろん、働き方改革を推進しながら夏季休暇もいただきましたが、子どもたちの笑顔を思い浮かべながら、新校舎での学びの始動の準備のためにたくさんさんの時間を使いました。子どもたちが安全・安心を実感しながら、豊かに学び合えるように先ずは環境整備に努めていきます。同時に心理的にも安心できるように、人権感覚を第一に考えた学校全体における変わらぬ人間関係づくりにも力を入れていきます。よき学び舎でよき仲間づくりを進めながら、改めて学校教育目標「豊かにつながり たくましく とともに輝く子～持続可能な学びの創造～」の達成をめざしていきます。

未来を育むためには、過去を基盤にすることは重要です。6月末に青葉公会堂で学校代表として、区国際平和スピーチコンテストに参加した6年阿部さんは戦争と人間関係について思いを伝えていました。つつじが丘小学校の代表として立派に責任を果たしていました。過去を未来に活かしながら、子どもたちの可能性を引き出す学校創りに新校舎で取り組みます。

小さな力が大きな争いに立ち向かう

阿部なつ葉

「戦争」この言葉を聞いて、思い浮かべることは何ですか？戦争は、経験した人々の心を深く傷つける、絶対にあってはならないことです。ですが、今まさに戦争が起きている国があります。世界で頻りに起きている戦争。その中で、日本に暮らす私たちが最初に思い浮かべる戦争は、「第二次世界大戦」なのではないでしょうか。日本にも大きな悪影響をもたらした、第二次世界大戦、戦争を起こさないようにするために、私たちができることはあるのでしょうか。

私の曾祖父は、実際に戦争を経験していました。曾祖父はおよそ百五歳まで生きていましたが、生涯、心の傷が癒えることはありませんでした。曾祖父のように家族にも言えない大きな傷を負った人は、たくさんいます。今戦争をしている海外にもです。危害を加えている国にも、強引に軍人とされている人がたくさんいます。かつての日本にも、拒否する権利がなく、軍に入れられる人がいました。そのような戦争は、果たしてその国の利益のためになるのでしょうか。

そして戦争による影響は、国内にとどまることを知りません。現在の戦争では、戦争の影響で石油の運輸などができなくなり、色々な値上げが発生し、日本にも大きな影響をもたらしています。このように、戦争には、何も関係がない国にも悪影響をもたらす大きな力があります。

では戦争を起こさないために私たちができることは何でしょう。私が考えていることは、自分たちが起こすような小さな争いをなくすことです。小さな争いから、戦争まで大きくなることもあります。私たちが穏やかな心を持ち、小さな争いを起こさないようにすることで、戦争をなくすことに貢献できるのではないのでしょうか。私は友達と話していくうちに、自分が、嫌だ。と思う言葉をかけられたことがあります。その時にすぐに怒ってしまうのではなく、一度深呼吸をして、大人に相談してみました。すると、心にゆとりができ、冷静になることができました。この様なことをすることで、大きな争いにしないことができます。さらに、そうすることで、他の課題も乗り越えることができるかもしれません。心にゆとりをつくり人と接することが、争いを起こさない第一歩です。大きな出来事でも、選択の中で冷静な判断をして、いい方へ導いていくことが私たちができることなのではないでしょうか。

今話した様に、戦争には大きな力があります。戦争は絶対にあってはいけないことです。そこで私たちができることを考え、小さな意識をしていくことで、小さな力も大きくしていくことができます。私たちが作る大きな力で、戦争を止めてみませんか。